

## 第2章 志布志市における自殺の現状

### 1 志布志市における5つのポイント

本市の自殺の実態に即した計画を策定するため、厚生労働省「人口動態統計」、警察庁「自殺統計」及び自殺総合対策推進センターが自治体ごとの自殺実態を示した「地域自殺実態プロファイル」を基に分析を行いました（5ページ 本章2 統計データから見る志布志市の自殺の現状）。

この分析結果から見えてきた本市の自殺をめぐる現状をまとめたのが、以下の5つのポイントです。

#### ▼ 5つのポイント

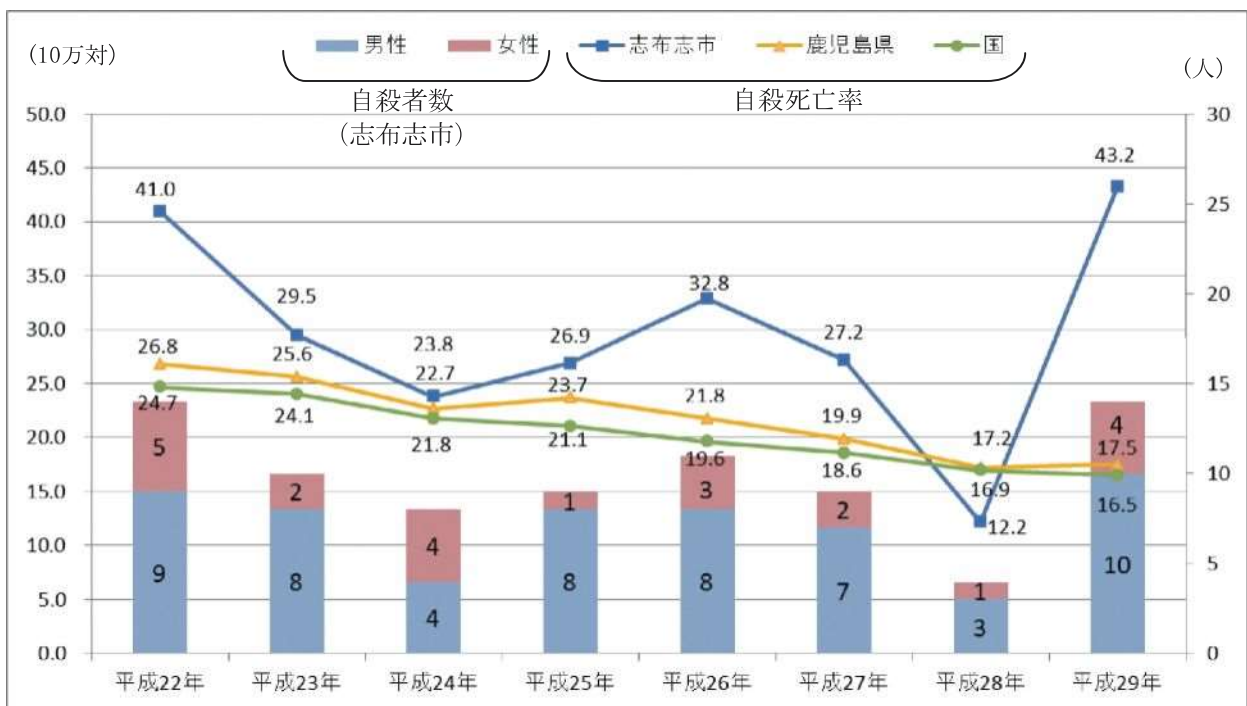
- 1 年間自殺者数は平均約9.4人。自殺死亡率（10万人当たりの自殺者数）は、鹿児島県及び国より高い傾向にある。
- 2 自殺者における中年期や80歳以上の男性の割合が高い。
- 3 自殺者における無職者の割合は8割を占める。
- 4 自殺の原因・動機別の割合は健康問題が多い。
- 5 自殺者の7割に同居人がいた。

## 2 統計データから見る志布志市の自殺の現状

(1) 平成25年から平成29年までの5年間に自殺で亡くなった人の数は47人（年間平均9.4人）、自殺死亡率の平均は28.5であり、鹿児島県（20.0）及び国（18.5）よりも高くなっています。

全国における自殺者数は、平成10年以降、14年連続で3万人を超える状態が続いていましたが、平成24年に15年ぶりに3万人を下回り、平成29年は2万1,127人と平成22年以降8年連続減少しています。鹿児島県における自殺者数は、平成29年は292人であり、平成18年をピークに減少傾向にあります。

図1：自殺者数と自殺死亡率の推移（平成22年から平成29年まで）



【出典】地域の自殺の基礎資料（厚生労働省）・自殺統計（警察庁）

### 平成29年 自殺統計（平成28年との比較）

- ・自殺者数：本市14人（+10人）、県292人（-3人）、国2万1,127人（-576人）
- ・自殺死亡率：本市43.2（+31.0）、県17.5（+0.3）、国16.5（-0.4）

(2) 自殺者における中年期や80歳以上の男性の割合が高い。

平成25年から平成29年の5年間に自殺で亡くなった人を性・年代別で見ると、50歳代以上の男性の割合が高くなっています。

○志布志市における自殺者の男女・年代別集計

(平成25年から平成29年まで合計)

年齢区分	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
男性	0	2	1	3	6	8	5	11	36
女性	0	1	0	0	1	2	4	3	11
合計	0	3	1	3	7	10	9	14	47

【出典】自殺総合対策支援センター「地域自殺実態プロファイル（2018更新版）」

図2：性・年代別の割合（平成25年から平成29年まで合計）

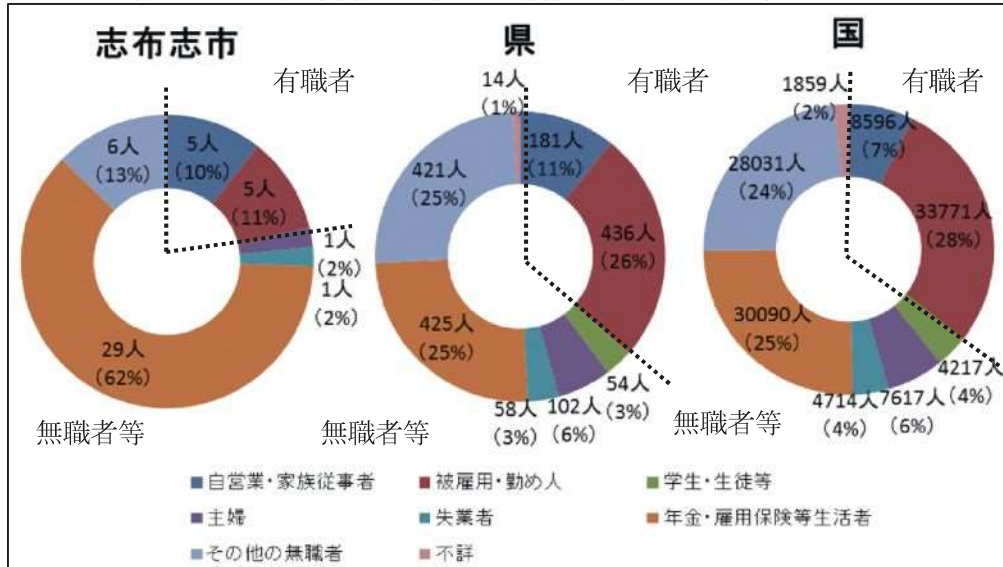


【出典】自殺総合対策支援センター「地域自殺実態プロファイル（2018更新版）」

(3) 自殺者における無職者の割合は8割を占める。

有職者・無職者の割合を見ると、平成25年から平成29年までの5年間に自殺で亡くなった47人のうち、37人（79%）は無職者であり、高い割合となっています。

図3：職業別の割合（平成25年から平成29年まで合計）



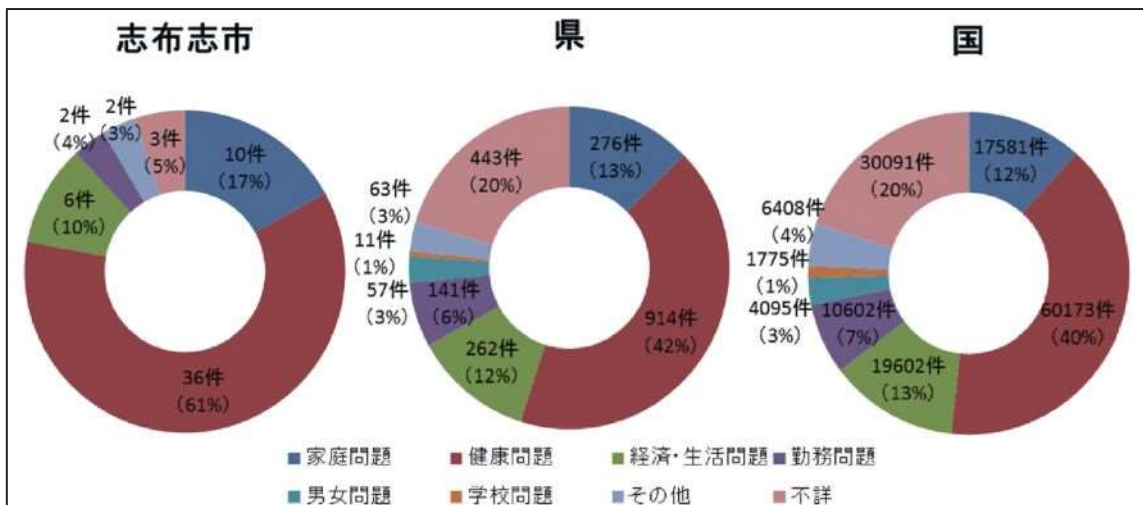
【出典】自殺総合対策支援センター「地域自殺実態プロファイル（2018更新版）」

(4) 自殺の原因・動機別の割合は健康問題が多い。

自殺者の原因・動機（3つまで複数計上可）について、平成25年から平成29年までの5年間で見ると、健康問題が36件（61%）と最も多く、鹿児島県42%、国40%よりも高い割合になっています。

※ 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きています。

図4：原因・動機別の割合（平成25年から平成29年まで合計）



【出典】自殺総合対策支援センター「地域自殺実態プロファイル（2018更新版）」

(5) 自殺者の7割に同居人がいた。

同居者の有無別で見ると、平成25年から平成29年の5年間に自殺で亡くなった47人のうち、同居人がいる人は32人（68%）であり、同居人のいる人の割合が高くなっています。

図5：同居人の有無の割合（平成25年から平成29年まで合計）



【出典】自殺総合対策支援センター「地域自殺実態プロファイル（2018更新版）」

(6) 鹿児島県における年齢別死因順位（平成29年）

10歳代から30歳代までの死因の第1位は、自殺となっています。また、40歳代で第3位、50歳代で第4位となっているなど、若年者の死因の上位となっています。

資料：人口動態統計

年齢階級	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
0～9	先天奇形及び染色体異常	12	26.7	周産期に発生した病態	9	20.0	不慮の事故	5	11.1	その他症状、徴候及び異常臨床所見	4	8.9	神経系の疾患	3	6.7
10～19	自殺	4	20.0	悪性新生物	3	15.0	不慮の事故	3	15.0	内分泌、栄養及び代謝疾患	2	10.0	その他症状、徴候及び異常臨床所見	2	10.0
20～29	自殺	19	36.5	不慮の事故	14	26.9	悪性新生物	6	11.5	脳血管疾患	3	5.8	肺炎	2	3.8
30～39	自殺	40	33.3	悪性新生物	25	20.8	肝疾患	9	7.5	脳血管疾患	7	5.8	その他症状、徴候及び異常臨床所見	7	5.8
40～49	悪性新生物	84	35.3	脳血管疾患	33	13.9	自殺	22	9.2	不慮の事故	21	8.8	心疾患	20	8.4
50～59	悪性新生物	231	36.3	心疾患	72	11.3	脳血管疾患	55	8.6	自殺	51	8.0	不慮の事故	41	6.4
60～69	悪性新生物	945	43.9	心疾患	240	11.2	脳血管疾患	177	8.2	不慮の事故	97	4.5	肺炎	67	3.1
70～79	悪性新生物	1,280	37.2	心疾患	457	13.3	脳血管疾患	299	8.7	肺炎	202	5.9	その他の呼吸器系の疾患	159	4.6
80～	悪性新生物	2,695	17.8	心疾患	2,643	17.5	肺炎	1,659	11.0	老衰	1,551	10.3	脳血管疾患	1,479	9.8
総数	悪性新生物	5,270	24.1	心疾患	3,439	15.8	脳血管疾患	2,055	9.4	肺炎	1,949	8.9	老衰	1,579	7.2

【出典】鹿児島県自殺対策計画より